

## 令和4年度 第2回岐阜県社会教育委員の会 議事録要旨

1 日時 令和4年8月30日(火) 10:00~12:00

2 場所 岐阜県議会棟東棟第2面会室

3 出席者(委員の現在数14人 出席者11人)

### <委員>

天野 知子  
加藤 一紀  
野中 準二  
益川 浩一  
松野 泰啓  
松原 勝己  
松山 昌代  
村瀬 眞実  
森 清美  
山本 真紀  
米原 木ノ実

### <事務局>

環境生活政策課長 山田 浩司  
生涯学習企画監 石井 幹也  
生涯学習係長 野村 めぐみ  
課長補佐 堀 正樹

## 4 確認事項

- (1) 岐阜県社会教育委員の会について
- (2) これまでの協議内容及び審議題の確認について

・資料をもとに事務局から説明

益川議長：ご質問等いかがか。

一 同：特になし。

## 5 研究・協議

- (1) 実践発表：瑞浪市社会教育委員 講師：有賀秀雄氏

講師：有賀 秀雄 氏

発表内容：「 地域・学校・家庭の協働による地域づくり 」

益川議長：熱い想いが伝わるお話だったと思う。前回の山本さんのように実際にプレイヤーとして活動を進めていく方も必要であり、また一方で、今回の有賀さんのような全体を俯瞰したうえで、取り組みを検証・改善する方向付けをし、全体がさらに良くなるよう調整する立場の方も必要だと感じた。ご質問・ご感想等いかがか。

天野委員：社会教育がどのような立場にあるか理解されていない中で、どのようにアピールして活動に繋げるのかの参考になった。子どもたちと関わる中で、自分のためになると思いき、難しいことを考えずに自分ができることをやる。例えば研修を受けたら、誰かに

教える。誰かに教えることは自分に一番身につく。人は常に学んでいくので、それをどこに返すのかを考えていきたいし、そういう人づくりをしていきたい。

益川議長：有賀さんの活動では、校長会、教育委員会、学校などへ情報発信を数多くしていただいているのを感じた。地域と学校の連携が必要ということを広めていく、情報発信して相互理解を深めていくことが、社会教育委員の役割のひとつではないかと考える。

山本委員：アンケートで実態を正しく知ること、人材の活用、活動拠点を設けること、費用と補償の問題といった環境づくりなどが大切であることを再認識した。私はコーディネーターとして、現場で企画して繋いでいく立場だが、有賀さんのように俯瞰していただける方が、現場の校長会や学校にお話しいただくことで、人材が活用・活動しやすくなると感じた。

現場のプレイヤーの立場だけではなく、今後2年間社会教育委員として俯瞰した目で見えていくことも大切だと感じた。

益川議長：アンケートにより情報収集して、ニーズをきちんと捉えたうえで、地域学校協働活動をどのように進めるかの方向付けを行うことも社会教育委員としての大事な役割である。人づくり、拠点づくり、予算など側面的な環境整備を行うことも社会教育委員としての地域学校協働活動への重要な関わり方である。

野中委員：社会教育とはという視点から、伝道師的な役割をされる方の必要性を強く感じた。瑞浪は、北中は地区ごとに人口や子供の数が全然違うので、これから瑞浪に限らず学校の統廃合が進むなか、地域の実情に合わせて手探りで進んでいくことになると思うが、俯瞰して見られる人材が大事ということを改めて感じた。

益川議長：活動の後ろ盾になるような、方向付けを行う先導役のような人なども、大きな視点と現場に近いミクロの視点が相まって素晴らしい活動に繋がることを感じた。

村瀬委員：縦の命令システムの整理が難しいにも関わらず、地域学校協働活動を社会教育委員が引き受けた感じを受けた。郡上市でいうと学校へのアンケートはぜひ実施してほしい。安全との関係という話もあったが、声をかけられる窓口が学校にないとダメだと感じた。地域とか校種ごとの特徴に沿って、その地域に両足を突っ込んで活動されているのが素晴らしいと感じた。CSの取組の初動は大変なので学校も腹をくくって両輪という形で取り組んでいかないといけない。

益川議長：実践に入り込んで、調査研究を進めつつどういった改善を進めるべきか助言されており、地域学校協働活動への社会教育委員の関わりが分かった。

松野委員：自分の活動（集落支援員）の参考にしたいので、どのような年代の方が集落支援員を務めていらっしゃるか伺いたい。

有賀氏：3地区を除いては、公民館やコミュニティセンターに位置づき機能している。瑞浪地区は私よりも年齢が高い方。土岐地区は40代くらいで、明世地区はまちづくり協議会の活動でホテルの勉強会をはじめとして地域と関わりをもっている。地区によって関わり方が違う。

松野委員：統廃合により、小さい学校が大きい学校になるので、有賀氏のような全体を見て調整いただける方がいると良いと思う。

松原委員：本校は、西濃地域の揖斐郡と海津市を除いた児童・生徒が通っており、かなり広域で

あること、複数の地域にまたがるという点が瑞浪市と似ている印象をもった。学校側からも地域に働きかけを行い、学校の活動をお知らせする機会を作っていきたい。来年度創立 50 周年を迎え、共生社会の実現に向け、学校や障がいのある子ども自ら社会に働きかけていき、学んだことを生かせる社会をめざしていきたい。その点で、社会教育委員の力をお借りできるのではないかと感じた。大垣市に所在する学校として、大垣市と協力して取り組んでいきたい。

益川議長：学校からの働きかけも重要。子どもを核とした地域づくりということもあるが、大人の生きがいづくり、自己実現も重要であり、その中で社会教育がどのように関わっていくのかも重要である。

加藤委員：柳ヶ瀬を中心とした街づくり活動などをボランティアでやっている。学んだことを生かす場が必要という言葉は自分の中で腑に落ちた、みんなで社会教育を考えて、次の世代につないでいく持続可能な活動にしていくことも大切だと感じた。

益川議長：後継者、もっと言えば仲間をどう増やしていくのかも重要である。

米原委員：ゆるやかなつながりや、その場所がどこにあるかの重要性を感じた。また、場所が必要ということを感じた。

益川議長：七宗町が学校内に地域とつながる場所をもっていたり、岐阜市の芥見東では地域ルームがあったり、物理的な居場所、拠点も必要な視点であり必要なことだと考える。

松山委員：大垣市を拠点とする我々 P T A は、地域と繋がる子どもたちのためにやりたいことがある人が集まっている。役員にも主体性をもってもらうため、さまざまな取り組みを行っている。自分自身、市の社会教育委員を知らないで、今日を境に社会教育委員に会いに行こうと思った。どこが強くていけなくて、どこも繋がっていないといけない。主体的につながりを求めていく必要性を感じている。家庭科、書道に学校支援ボランティアがいると良いと感じたことがあり、上手にコーディネートする人がいたら良いと思う。人材を発掘するためにも繋がりを感じる。

行政に対しては、必要に迫られないと動かない、予算がないから動けない、面倒なことをやりたくないという印象がある。そのため、求めているものがある人たちがもっと繋がって大きな母体となって行政に働きかけていけると良い。

森 委 員：自分の住んでいる地域は、金華山のふもとの鶺鴒の船が着くところで、0 歳児から中学生を対象にした青少年育成をする団体、まちづくり団体、安心安全ふれあいクラブ、老人会、交通安全委員会など各種団体があり、地域で子どもたちを見ているが、そういったのは社会教育といって良いのか。

益川議長：社会教育団体といってよい。そういった人たちをつなぐことも子どもを核とした地域づくりに必要。

今回は、子どもを核として地域づくりを進めているプレイヤーにお越しいただいたが、本日は、方向付けを行う立場の人も大事ではないかということで、有賀さんにお越しいただいた。取り組みの良さ、人材の良さという点では、現場である地域は手探りで進めているため、全体を俯瞰しながら実際の取組を検証したうえで、改善の方向性を見る人が地域づくりの中で大切だということが分かった。そういった方には、情報を収集する力が求められ、さらに情報発信力も重要な力ということを取組から学ばせて

もらった。人づくり、財政的なこと、活動拠点など側面的な環境整備を進めていく力を持った人も重要であり、情報収集、情報発信、環境整備力がカギになる。いろいろな人を繋ぎ、それぞれの相互理解を促進するとともに、モデルを検証して改善していくといった活動を知ることができた。

プレイヤーをたくさん育て、発掘していくことも大切だが、一方で事業全体を俯瞰し、検証・改善の方法を示すような人も大事だということを県全体へのアピールポイントとしたい。